

第2分科会

就学前の子ども達との関わりからみえてきたもの

(2階 201研修室)

かわいくて、むじゃきな子ども達…。子ども達の笑顔が続くことが大人の願いです。子どもの育ちを考える上で、とても大事な時期ですが、子ども達はたくさんの課題を抱えながら成長しています。子どものせいではなく、子どもを見守る大人の都合で…。しかし、かわいい子ども達のために大人も一生懸命です。時に不安を感じながらも…。子ども達のよりよい成長のために、私たちはどんなことができるでしょうか。



- ① 放課後は子どもの宝物 ～「元気にしていく」＝「ストレスを越えていく」地域教育～ 14:10～14:40

山本 隆 さん(沖縄県 ONE(沖縄自然体験)ネットワーク、「学童クラブわんぱく家」指導員)

「一昔前のような子ども達にとって自由にあつた地域での居場所作りを取り戻してゆきたい」が私の仕事の本音。すでに昔のように行かないが、今の子ども達の様々な教育問題を変えていくためには、地域力が重要になると考えている。子ども達の望むものは何か、情緒が安定し、「自我」に目覚める環境は何か、大人達はどのように考えていくのか。少年期の地域教育を親達と一緒に運営している学童クラブわんぱく家の現状と、一生に一度の幼児期から少年期の意味をともに考えていきたい…。

- ② 保育園が地域を元気にする ～学社融合は保育園から～ 14:45～15:15

河野 利文さん(益田市 豊川保育園 理事長)

“保育園は『これから地域を支えていく人』がつながる拠点”と考え、地域の人を巻き込んだ様々な取り組みに挑戦しています。地域の高齢者に呼びかけてのお花見会遠足や登山の実施、親父の会への参加呼びかけ、益田圏域の全保育園の親子対象にした「親子キャンドルフェスタ2006inグラントワ」の開催などの実践からみえてきたものは…。

- ③ 気持ちを伝えて気持ちを知る ～めんどくさい人との関係～ 15:20～15:50

市原 悟子さん(大阪府 アトム共同保育園 園長)

子ども達に、忍耐が無い、友達同士で遊べない、話ができなくてすぐ怒り、すぐ泣く、自分の気に入らない事があるとその場から離れる、等等表現力コミュニケーション能力欠如とか安心よりも不安要素の多さを耳にします。子どもは大人の影響を受け、大人を見よう見まねしながら、学習していると思います。

見本の大人は、どうでしょう？ 大人が振り返らないで、子どもだけに望む事は無理です。

幼児期とは大人になるまでのどんな期間なのでしょう？ 就学前は何が大切なのでしょう？ こんな機会に振り返ってみませんか？

- ④ 指導助言者の進行により、質疑応答や事例の補足説明、協議 15:50～17:00

【第2分科会 報告】

指導助言者:

山本 健慈

和歌山大学生涯学習教育研究センター教授(センター長)

社会福祉法人アトム共同福祉社会会長理事



昭和23年山口県生まれ。和歌山大学生涯学習教育研究センター教授(センター長)。専門は、社会教育学・生涯学習論・子育て支援システム論。1988年和歌山市から大阪府熊取町に転居。その際長男の保育の必要からアトム共同保育所に出会い、89年運営委員長、90年所長兼副代表理事(2003年3月まで)。

アトム共同保育所の法人化に伴い、2003年4月より社会福祉法人アトム共同福祉社会(アトム共同保育園を運営)の会長理事を兼職。88年創設の貝塚子育てネットワーク(貝塚公民館の支援により設立)のアドバイザー。95年ころの子育てインターネット関西創設に参加、現在副代表。文科省の家庭教育支援、地域づくり支援(地域づくりアドバイザー)、厚労省の子育て支援事業にも関与。

